

小泉 潔 (著)

カラーアトラス胸腔鏡下肺癌手術 イラストと DVD で学ぶ術式のポイント

白日高歩

(福岡大学名誉教授・福西会病院病院長)

著者の日本医科大学呼吸器外科・小泉潔教授は我が国における胸腔鏡下肺癌手術の代表的な権威者のお一人として有名である。先生はそれ以前のオーソドックスな開胸手術の時代から、この胸腔鏡による肺癌手術に至るまでの2世代にわたる呼吸器外科の歴史に身を置かれ、その奥義を究められた外科医の一人である。

1980年代頃隆盛となった胸腔鏡手術は当初、自然気胸に対するブラ切除を対象に爆発的に広まったが、すぐに呼吸器外科医すべてが熱心に取り組む肺癌に応用されるに至り、いわゆる VATS Lobectomy として日本全体に流布することとなった。大きな皮膚切開を行わずに出来る限り小さな傷（ポート孔ならびに操作用切開創）で肺癌手術を完遂出来る胸腔鏡下手術

は、いわば今日の時代的要請であり、特に最近のように小型～微小肺癌が大部分を占める時代においては、さらに難しい区域切除の手術も胸腔鏡下を実施することが求められる状況である。本書は肺癌の発生部位別に葉切除、全摘、区域切除の各胸腔鏡手技を分かりやすく解説しており、これから胸腔鏡下に肺癌手術をやってみようとする若手胸部外科医にとっては必見の書と考えてよい。

著者の小泉教授より直接お聞きしたところでは、この書のすべての図は先生御自身が直接手描きされたものとのことである。手術図を描くこと上手な人は手術も一流との評判をまさに裏書するようなきれいな図が掲載されている。これだけの分量の図や解説文をいつ書かれたのかとお尋ねすると食

事の合間、あるいは他の人が寝静まった頃に書きましたとのことで、いかに先生が寸刻を惜しんで多忙な業務の合間をぬい、本書に取り組まれたかが推察されるところである。

本書をめくっていくと、胸腔鏡下手術にとって非常に重要な注意点、例えば血管切断時に自動縫合器を挿入する際、かならずカートリッジ上の異物（ヘモクリップ等）が存在していないかどうかをチェックするようにとの細かな指摘があるが、これなどは胸腔鏡で肺癌手術を実際にやった人であればなるほどと必ず納得できる忠告であろう。

その他、先生の豊富な経験に裏打ちされた、いわば手術への理念のようなものも随所に垣間見られて、非常に魅力的な書物となっている。もう一度、本書が若手呼吸器外科医にとって極めて有益な書であることを強調してここに推薦したい。

●A4/頁 198/2009 年/定価 21,000 円 (本体 20,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-524-25379-1]
南江堂 刊